

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(8月5日～8月19日)

2019年8月20日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、モギリョフ州視察(8/14)

●ズベルバンク「ベラルーシ経済成長率が年初目標である4%を達成できるはずがない」

●ベラルーシ、2019年1月～7月 GDP は1.3%

大統領動静

●モギリョフ州視察(8/14)

同州東南部の発展を担うカスチューコヴィチユスキー地区に訪問。ルカシェンコ大統領は、「収穫・種蒔き作業のテンポを落としてはならない」と発言。同州および同地区首長は、同地域の社会経済発展状況を報告するとともに、赤字企業と共に推進する財務標準化や従業員の給与改善に向けた施策について強調した。さらに、鱒養殖場に視察し、魚養殖業の発展の重要性に言及した。

(8/14 大統領府公式ホームページ)

●カラニク保健大臣と協議(8/12)

ルカシェンコ大統領の発言は以下の通り。

・カラニク保健大臣任命時、我々は、一定期間経過後の全ての分野における保健システム構築を完工すると合意していた。

・私と社会を不安とさせる要因は、医療機材の購買と価格形成である。仲介業者を排除した医療機材の購買や、医薬品の公正な価格形成は重要事項である。

・医薬品の輸入代替政策も課題である。現状、医薬品の輸入額は5億ドルである。我々はこれら医薬品を自国で製造できるはずである。

(8/12 大統領公式ホームページ)

●クルマンベク・バキエフ・キルギス元大統領と会談(8/6)

ルカシェンコ大統領の発言は以下の通り

・バキエフ大統領の誕生日にはキルギスへ訪問する。キルギスでお手製のプロフを所望したい。ワインはベラルーシから持参する。

クルマンベク元大統領の発言は以下の通り。

・ぜひキルギスに訪問頂きたい。その場合は、最初から最後まで歓待する。

(8/6 大統領府公式ホームページ)

内政

●ベラルーシ、2019年上期犯罪率、昨年同期対比 8.3%増加

(8/13 ベラパン通信)

●カラニク保健大臣、「医師の国外流出を防ぐために、給与を2025年までに2倍にする」

同大臣は国営テレビ局ベラルーシ1のインタビューで「医療人材の動きは止めることができず、今後も永遠に続くであろう。ベラルーシの医師については国外流出が頻繁である。流出を防ぐために、医師の給与を引き上げる。」と発言

(8/13 ベラパン通信)

●ベラルーシ、麻薬犯罪、5%減少

内務省、検察庁の情報によれば、ベラルーシにおける麻薬犯罪状況は改善傾向にあり、2018年上期の摘発数が2666件であったのに対し、2019年上期は2533件と減少している。

(8/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ、麻薬依存症患者数、約8千人

国内の麻薬依存症患者数は減少傾向にあり、2016年では新規患者数679名であった一方、2018年は439名であった。

(8/9 ベラパン通信)

●新学期の大学生総数は28万人

教育省は、「ここ数年大学定員数は安定化しており、増加はしていない。今年は経済学、法学の定員が削減された一方、情報工学、医学、体育学の定員が増加した。」と発表。

(8/7 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●2019年上期、赤字企業数増加

2019年上期で赤字企業数は256社、赤字企業の割合は17.4%。2018年上期ではそれぞれ238社、16.2%であった。

(8/15 ベラパン通信)

●2019年1月～7月のGDPは1.3%

2019年上半期時点では0.9%であったが、7月に入り成長率は0.4%加速し1.3%となった。

(8/14 ベラパン通信)

●オストロヴェツ原発、核燃料配送は10月1日

ロスアトム主催で行われたオストロヴェツ原発と各種メディアとの会談において、同原発の建設を担当しているASE社副社長は「現状の原発建設進捗率は、第一原発で95%、第二原発で70%と報道されている。核燃料の配送は関係者間で10月1日と合意している」と述べた。

(8/10 ベラパン通信)

●2019年上期 ICT 分野輸出成長率、去年同期対比21%

同様に売上成長率は9.9%、利益成長率は13.4%。GDP全体に占めるICT分野の割合は6.4%。

(8/8 ベラパン通信)

●ズベルバンク「ベラルーシ経済成長率が年初目標である4%を達成できるはずがない」

同銀行の経済アナリストは「2019年上半期、ベラルーシの経済成長率は0.9%に留まった。この低成

長は、ロシアからの汚染石油流入問題を起因としている。この汚染石油問題は、第二四半期のベラルーシ産業品生産の減少や石油精製分野の販売悪化に繋がった。一方で、内需は堅調であり、給与額を増加傾向にあり、小売販売量は4.6%上昇し、経済成長維持の牽引となっている。」と発言。

(8/9 ベラパン通信)

【対外経済】

●9月17日～20日、ベラルーシ産業投資フォーラム開催予定

(8/14 ベラパン通信)

●ベラルーシ2019年上期、輸出額は3.2%減、輸入額は0.3%増。

(8/13 ベラパン通信)

●2019年上期、ベラルーシに対する外国投資額は4億ドル減少。

国家統計局は、2019年上期同額が約51億ドルと発表した。昨年同期同額は約55億ドルであり、約4億ドル減少。内訳は、ロシア44.7%、イギリス20.4%、キプロス8.2%。なお、2019年上半期のベラルーシによる外国への投資額は28億ドルであり、昨年同期対比4億ドル減少した。

(8/13 ベラパン通信)

●ペトリシェンコ副首相、キルギスで開催されたユーラシア同盟経済委員会に参加。

産業政策、財政政策、関税、経済のデジタル化について協議が行われた。

(8/8 ベラパン通信)

●ベラルーシ、シンガポール国際商事調停条約に署名

国連国際商取引法委員会が2018年12月に採択した本条約に、米国、中国、インドをはじめとする46カ国が署名した。ベラルーシからは、オレグ・スリジェフスキ法務大臣が署名式に参加し、署名した。

(8/7 ベラパン通信)

●ベラルーシ、ケニアにコンクリート工場、漁業養殖場を建設予定(総額約1億ドル)

同案件は、2019年8月1日～3日にかけてケニアのナイロビで開催された食品国際展覧会 Foodagro-2019 で合意が得られた。

(8/7 ベラパン通信)

●ロシア・ベラルーシ、第三四半期の石油トランジット料率を3.7%引き上げに合意。

低品質石油流入に関連し石油パイプライン「ドルージュバ」におけるロシア産石油トランジット量が減少していることを受け、同パイプライン運営会社「ゴメリトランスネフチ」社が料率調停機関にトランジット料率変更の検討を要請した。第三四半期以降の石油輸送量に明確な予測が立てられないことから、第一歩として同引き上げで合意をした。

(8/8 ベラパン通信)

(了)